

製品名: JNK3 (19B13) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12847**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:1000-1:10000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK10
別名	Mitogen-activated protein kinase 10; MAP kinase 10; MAPK 10; MAP kinase p49 3F12; Stress-activated protein kinase 1b; SAPK1b; MAPK10; JNK3; JNK3A; PRKM10; SAPK1B;
遺伝子 ID	5602.0
SwissProt ID	P53779
免疫原	ヒト JNK3 の合成ペプチド

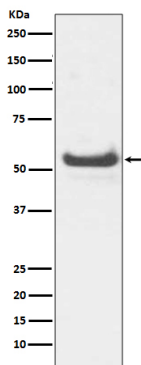
背景

ストレス活性化プロテインキナーゼ/c-Jun N 末端キナーゼである SAPK/JNK は、紫外線やガンマ線、セラミド、炎症性サイトカイン、そして場合によっては成長因子や GPCR アゴニストなど、様々な環境ストレスによって強力かつ優先的に活性化されます。神経細胞のアポトーシスにおけるシグナル伝達経路において調節的な役割を果たします。セリン/スレオニンプロテインキナーゼは、神経細胞の増殖、分化、遊走、プログラム細胞死など、様々なプロセスに関与しています。炎症性サイトカインや物理的ストレスなどの細胞外刺激は、ストレス活性化プロテインキナーゼ/c-Jun N 末端キナーゼ (SAP/JNK) シグナル伝達経路を刺激します。このカスケードでは、2つの二重特異性キナーゼである MAP2K4/MKK4 と MAP2K7/MKK7 が MAPK10/JNK3 をリン酸化して活性化します。一方、MAPK10/JNK3 は、JUN や ATF2 といった AP-1 の構成要素を中心に、多数の転写因子をリン酸化することで、AP-1 の転写活性を制御します。神経細胞のアポトーシス過程におけるシグナル伝達経路において調節的な役割を果たします。神経微小管制御因子 STMN2 をリン酸化します。神経分化過程においては、APP をリン酸化することにより、アミロイド β 前駆体タンパク質/APP シグナル伝達の制御に作用します。また、らせん神経節ニューロンにおける神経突起の成長にも関与します。CLOCK-ARNTL/BMAL1 ヘテロダイマーをリン酸化することで、概日時計の光制御に関与します (PubMed:22441692)。JUND をリン酸化しますが、このリン酸化は MEN1 の存在下で阻害されます (PubMed:22327296)。

研究分野

Toll_Like; 幹細胞経路; インスリン受容体; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; ErbB/HER; SAPK_JNK; WNT; WNT-T 細胞; β -カテニン; 細胞増殖

画像データ



HeLa 溶解物中の JNK3 発現のウェスタン ブロット分析。